

平成30年度 第2回北陸における広域道路交通のあり方検討会 議事録

1. 日 時：平成30年11月27日（火）10：00～12：00

2. 場 所：【新潟会場】北陸地方整備局 4階 合同会議室
【富山会場】富山河川国道事務所 3階 大会議室
【金沢会場】金沢河川国道事務所 1階 入札室

3. 出席者：別紙参照

4. 開会の挨拶
北陸地方整備局 岩見道路部長

5. 新広域道路交通ビジョン・計画の検討の進め方について

(1) 北陸ブロック 新広域道路交通ビジョン・計画の検討の流れ【資料1】

(2) 主な意見等
・特になし

6. 第1回あり方検討会における主な意見

(1) 第1回北陸における広域道路交通のあり方検討会での主な意見と対応【資料2】

(2) 主な意見等
(佐野委員長)

- ・資料4のP3の高規格幹線道路網の図をみると、4車線も暫定2車線も同じ赤い線が利用されているので、既に十分なネットワークがあり、もう整備は必要がないようにも見える。暫定2車線の区間は、走行の安全性や災害時には問題が多く、まだ整備が必要であることがわかるように、赤い線は濃淡や破線にするなど工夫した方が良い。

(高山委員)

- ・道の駅を様々な方法で活用するのは良い方向性だと思う。特に、過疎地域においては、最近ドクターヘリの運用が進んできており、去年は富山県、今年は石川県に導入されているが、運用上で問題になるのは、救急車とドクターヘリの接続である。道の駅の駐車場等を臨時のヘリポート（ランデブーポイント）として指定しておくことが重要と考える。その記載も入れて欲しい。

(高山委員)

- ・道の駅を防災拠点として活用するということが、全ての道の駅が安全な場所にあるとは限らない。防災機能の評価が事前に必要ではないか。防災機能の評価について、これまで実施された経緯があるか確認をお願いしたい。

7. 北陸ブロック新広域道路交通ビジョンの素案について

(1) 北陸ブロック新広域道路交通ビジョンー中間とりまとめ(素案)ー【資料4】

(2) 主な意見等

(佐野委員長)

- ・表紙の図は、アジア諸国・極東ロシアのなかの位置づけもあるので、より広い視点の図にした方が良いのではないか。
- ・P15、16の中央の図の北陸の各都市の○の大きさや対象とする都市の基準をはっきりとした方が良い。糸魚川市や黒部市を入れると連担して繋がりがあるようにも見える。

(長尾委員)

- ・貨物流動については、新潟県は関東方面、富山県・石川県は中部・近畿方面が多いという特徴がある。その特徴を効率的に利用し合い、東京方面へは新潟に集約、近畿方面は石川に集約し連携して対応していくという構想を持って良いのではないか。物流コストや人手不足という観点でも有効だと考えられる。

(後藤委員代理)

- ・トラック業界では、運転時間・拘束時間が待ったなしの問題となっている。人手が足りなくてツーマン運行ができない。自動運転になっても現在の状況では人が乗車しなければならず、運転手に8時間以上の休憩時間を取らなければならない。今現在では、運転手の休憩施設としてトラックステーションがあるが、スペースとしては足りない状況であり、現状のままでは関東・関西方面への移動が難しくなる。
- ・大規模な拠点施設の整備をできる限り速やかに対応する必要性に迫られているため、このような状況を是非ともご理解頂きたい。

(佐野委員長)

- ・長距離ドライバーのなり手がどんどん減少している。そこで考えられているのが、半日で移動して、トラックを乗り換えてホームタウンに戻るといったターミナルである。そういったものが将来的にあれば良いと思う。

(後藤委員代理)

- ・このターミナルの問題は、大手の会社であれば対応はできるが、個々の会社の車が連携して対応するのは難しい問題であり、公的な運送業界で対応していく必要がある。
- ・運転の拘束時間を短縮し、運転手が疲労なく安全運転ができる環境を実現するためには、道路網の整備が不可欠であり検討をお願いしたい。

(高山委員)

- ・「広域的な道路交通の基本的方針」は広域道路ネットワークの基本的方針を踏まえると、「広域的な道路整備の基本的方針」とした方が適切ではないか。
- ・交通に偏った整理になっていると感じられる。北陸とその他の地域の産業連関分析を行うことで、それぞれの経済分野でどのような波及効果があるか、どこで消費されているのかなどが見えてくる。経済活動の結果として物が動くという整理ができないか。

(佐野委員長)

- ・ P15、16 で将来の夢が語られているが、その後が現実のデータばかりになる。この間にもうワンステップあっても良いと思う。例えば、極東ロシアや北朝鮮との交流が活発になったら、新潟港の取扱量がどれくらい見込まれるとか、予測が難しいと思うが、将来的な夢を盛り込むことができれば良いと思う。

(山下委員)

- ・ 北陸地域の港から、韓国・極東ロシア、また将来的には北朝鮮に運び、そこからヨーロッパに鉄道で輸送するといった検討が始まっている。時間的には早く着くことができ、北陸地域の品物だけではなく、ものづくりの盛んな愛知県から東海北陸道を経由でということも考えられており、将来的には実現の可能性はある。

(山下委員)

- ・ P10「地域に根付く日本海随一のものづくり産業」に石川県の金箔の写真が掲載されている。石川県はものづくり県であり、建設・鉱山機械製造など生産用機械製造が多い。金箔ではなく機械製造の写真にした方が良いのではないか。

(佐野委員長)

- ・ 重要物流道路の指定には、既存の道路による1次指定と将来計画も含めた2次指定があるが、ビジョンは2次指定以降も見据えた内容になるように検討をお願いしたい。

(佐藤委員代理)

- ・ P37「第4章 広域的な道路交通の基本的方針 広域道路ネットワーク」の視点1に「現状の2車線の脆弱性を解消するため原則、多車線化を目指す。」とある。高速道路の2車線区間は、非常にストレスがかかる。また、災害時の支援物資の輸送や災害派遣が重点的に入れないと災害復旧が遅れる。「2車線の脆弱性の解消」を視点3の災害にもポイントとして付け加えて欲しい。
- ・ 財源的には難しい面があるかもしれないが、基幹的なネットワークは、災害という視点からすると4車線あるいは多車線、2車線であっても通り抜けができる広幅員化が必要という整備方針を国として据えることがポイントと考える。

8. その他

(1) 本日の会議資料・議事概要の公表について

本日の会議資料・議事概要について、北陸地方整備局のホームページにて公表する。
事務局で速やかに議事概要を作成し、各委員に確認して頂いた後、公表させて頂く。

8. 閉 会

北陸における新たな広域道路交通のあり方検討会 委員名簿

※敬称省略

分野		北陸ブロック		
		所属	役職	氏名
有識者	交通計画	長岡技術科学大学大学院	教授	佐野 可寸志 (委員長)
	物流・観光	富山国際大学	教授	長尾 治明
	交通計画	金沢大学大学院	教授	高山 純一
	防災	新潟大学	教授	田村 圭子 (欠席)
	物流	北陸信越ブロックトラック協会	専務理事	浅間 博 代理出席 後藤 行隆
	観光	オフィス・ウスイ	代表	臼井 純子 (欠席)
	経済	北陸経済連合会	専務理事	山下 義順
	経済	東北経済連合会	専務理事	小林 正明 代理出席 佐藤 信康